

## トピックス

## なぜ魚の福祉に配慮するのか

おぐら ゆうへい  
小倉 裕平（水産資源研究所さけます部門 資源生態部）

## はじめに

動物福祉と聞くと、非科学的という印象をもつかもしれません。しかし、実際には動物福祉は生物学的に評価可能であり、動物福祉学という学問としても扱われています。また、動物福祉学は動物倫理学という学術体系の一部としてとらえることもでき（図 1）、動物福祉が求められる背景を理解するには動物倫理学の考えにも触れる必要があります。そこで、本稿ではまず動物福祉とは何かを解説し、動物福祉の必要性に関する動物倫理学的な背景を説明します。また、魚に関しては、動物福祉の対象とすべきか否かという論点があるので、関連する議論を紹介します。

## 動物福祉の必要性

「動物福祉」という言葉は様々な文脈で使用され、意味も若干異なっていますが、本稿では「動物福祉」＝「animal welfare」として、下記の国際獣疫事務局（WOAH）による定義を用います。WOAH（2024）は動物福祉とは「動物の生死にかかわる身体的または精神的な状態」と定義しています。動物福祉の指標としては寿命、成長、繁殖、怪我、病気、ストレス、行動などが用いられており、これらは生物学的に評価できます（Broom 1991）。動物福祉に配慮するということはこれらの指標に基づき、動物の心身の状態を向上させることを意味します。

なぜ、動物福祉の水準を向上させることが必要なのでしょう。こうした判断は生物学の範疇ではなく、動物に関する行為の是非に対する根拠を考える動物倫理学によって行われます（田上 2021）。ここでは、動物倫理学の中心を占める 2 つの学説と動物福祉の関連を紹介します（図 2）。一つ目の学説は功利主義的動物倫理で、種差別を否定した上で幸福の総量の最大化を目指し、動物を含めた生物の最大幸福を理想とします（山口 2008）。この考え方は合理的であるように思えますが、最大となる過程を問わない点が問題となります。例えば、人や動物を殺すことに無上の幸せを感じる人が多数いる世界は、幸福の総量が多かったとしてもよい世界だとは言い難いと想像できます。その問題を克服するのが 2 つ目の学説である動物権利論であり、個々の権利の順守を至上とします（山口 2008）。例えば、生き物を殺すこと

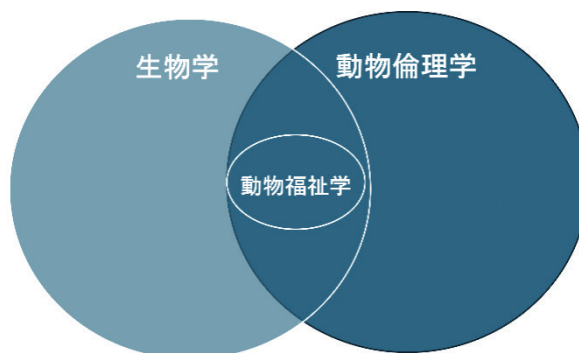


図 1. 動物福祉学と生物学、動物倫理学との関係性  
動物福祉は生物学的に評価可能であるが、動物福祉が求められる根拠は動物倫理学に依る。

は生存権を侵害するため動物権利論では先ほどの殺生が常態化した世界は推奨されません。みなんの権利が尊重される世界は理想的ですが、動物権利論にも問題があり、それぞれの利害が衝突する時に生じます。例えば、獣害など動物が人間に危害を与える状況では、いずれかの権利の優先を迫られます。思想を实践するうえでの問題点はありますが、動物権利論は修正を受けつつも動物倫理学の理論的主流となっています（フランシオン 2018）。一方、動物福祉は基本的には功利主義に根差しており、人と動物の幸福の総量が大きくなる場合は動物の利用を妨げません。（田上 2021）。ただし、動物権利論の最高到達点である動物利用廃絶を目指しつつも、現状では動物福祉を重視する、動物福祉の概念を拡張した思想も存在します。（井

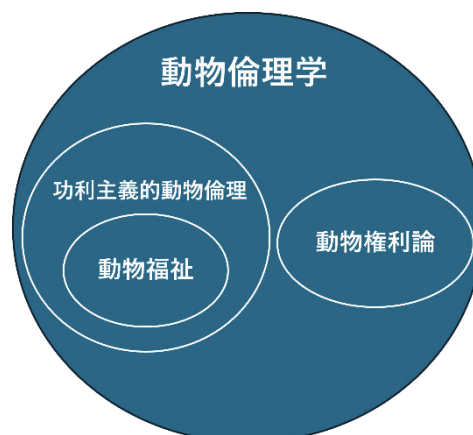


図 2. 動物倫理学の中での動物福祉の位置づけ  
動物倫理学の主要な学説として功利主義的動物倫理と動物権利論がある。動物福祉は人と動物の幸福の総量が高まる場合には動物の利用を否定しない点で功利主義的動物倫理に根差した思想である。

上 2022)。

## 魚を動物福祉の対象とすべきか

続いて、魚を動物福祉の対象とすべきか否か、について考えていきます。動物福祉の対象動物にどこで線を引くかは様々な議論がありますが、「情動」の有無が基準となることが一般的です(Brown 2015)。生理学における情動とは苦痛や喜びなどの感情に身体的な変化を加えた概念です(中江・眞下 2010)。魚の情動の有無についても議論の余地はありますが、活発に行われてきた痛みの研究は魚に情動があることを強く示唆しています(Sneddon 2020)。痛みについて間違いやすいところですが、不快な刺激に対して忌避行動を示すことは痛みを経験する証拠とはなりません。組織を侵害しうる刺激に対する反応はほとんどの動物が備えています、必ずしも不快感のような情動が伴うわけではありません(Smith and Lewin 2009)。一方、痛みは組織の傷害等に伴う不快な感覚と情動の経験と定義されています(IASP 2020)。魚において不快な情動を推し量ることは困難ですが、生理学的・行動学的な研究により、人を含む哺乳類における痛みと同等な経験を魚も共有している可能性が高いことが示されています(Sneddon 2020)。以上の理由から、魚は動物福祉の評価の対象となることが一般的です。

## おわりに

近年、動物福祉に関する法律やガイドラインによる規制は世界中で強まる傾向があります(Franks et al. 2021)。動物福祉の必要性を完全に支持する理論がない状況でなぜ動物福祉を考慮する動きが広まっているのでしょうか。図3は各国の動物福祉に対する取り組みを評価したもので、日本の評価は極めて低く、イギリスやスウェーデン等の取り組み方とは大きな差があることがうかがえます。

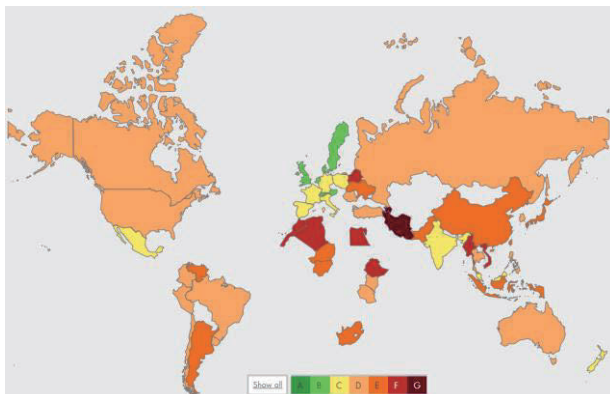


図3. Animal Protection Index (API)

APIは50の国に対して、動物福祉に関わる制度や政策を評価した指標である。地図上の色は最も高いAから最も低いGまでの総合評価を示している(World animal protection, 2020より引用)。

これより、日本とは全く異なる動物倫理に対する空気感が特に欧米の一部に存在していることをまず認識する必要があります。実際に、以前は極端な少数派だと見なされた動物搾取を一切否定するヴィーガンも欧米を中心に増加しています(Vestergren and Uysal 2022)。倫理学的事象に限らず、数学の証明のように隙のない理論は稀であり、ある程度妥当だという同意をより多く得た考えが法律などの社会的なルールとなります。差別の否定や多様性の尊重を背景に拡大した動物倫理を重視する世論が動物福祉関連のルールの強化に貢献していると考えられます(田上 2021)。また、動物福祉の思想は、動物の利用で利益を得る人々と動物利用の廃絶を目指す人々の両者に配慮しているとも捉えられ、現実的に受け入れやすい点が導入を促している可能性があります。一方、通常追加的な労力を要する動物福祉への対応は、人の利益がない場合は受け入れがたいと考えられます。そこで、そうした声にも対応した one welfare という概念が近年登場しました。one welfare は動物と人間の福祉の関連性を重視し、双方の福祉向上を目的とする考えです(Pinillos et al. 2016)。例えば、魚の福祉に配慮することで魚体品質が向上する例があり、食品として間接的に人間の福祉向上にもつながる可能性が指摘されています(Giaquinto 2024)。これまで動物福祉の向上のみを目指していた取り組みに one welfare の考えを取り入れることで、動物福祉が人間にとっても必要なものへと変化してきています。

## 引用文献

- Broom, D. M. 1991. Animal welfare: concepts and measurement. *J. Anim. Sci.*, 69(10): 4167-4175.
- Brown, C. 2015. Fish intelligence, sentience and ethics. *Anim. Cogn.*, 18(1): 1-17.
- ゲイリー・L・フランシオン. 2018. 動物の権利入門ーわが子を救うか、犬を救うか(井上太一訳). 緑風出版, 東京. 348 pp.
- Franks, B., Ewell, C., & Jacquet, J. 2021. Animal welfare risks of global aquaculture. *Sci. Adv.*, 7(14), eabg0677.
- Giaquinto, C. M. M. P. C. 2024. Structural environmental enrichment improves Nile tilapia flesh quality(in press). *Int. Aquat. Res.*
- IASP. 2020. IASP Announces Revised Definition of Pain. URL: <https://www.iasp-pain.org/publications/iasp-news/iasp-announces-revised-definition-of-pain/>, (参照 2024-08-15)。
- 井上太一. 2022.動物倫理の最前線ー批判的動物研究とは何か. 人文書院, 京都. 425 pp.
- 中江 文・眞下 節. 2010. 痛みと情動. *Pain*

- Research, 25(4): 199-209.
- Pinillos, R. G., Appleby, M. C., Manteca, X., Scott - Park, F., Smith, C., & Velarde, A. 2016. One Welfare - a platform for improving human and animal welfare. *Vet. Rec.*, 179(16): 412-413.
- Smith, E. S. J., & Lewin, G. R. 2009. Nociceptors: a phylogenetic view. *J. Comp. Physiol. A*, 195:1089-1106.
- Sneddon, L. U. 2020. Can fish experience pain? In *The welfare of fish* (edited by Kristiansen, T. S., Fernö, A., Pavlidis, M. A., & Van de Vis, H.), Springer International Publishing, Cham, Switzerland. pp. 229-249.
- 田上孝一. 2021. はじめての動物倫理学. 集英社, 東京. 264 pp.
- Vestergren, S., & Uysal, M. S. 2022. Beyond the choice of what you put in your mouth: A systematic mapping review of veganism and vegan identity. *Frontiers in psychology*, 13: 848434.
- WOAH-World Organisation for Animal Health. 2004. Terrestrial Animal Health Code. URL: <https://www.woah.org/en/what-we-do/standards/codes-and-manuals/terrestrial-code-online-access>, (参照 2024/07/23) .
- World animal protection. Animal protection index. URL: <https://api.worldanimalprotection.org/>, (参照 2024-08-15) .
- 山口拓美. 2008. EU アニマルウェルフェア政策の思想的背景についてー功利主義と perfectionism. *商経論叢*, 43(3-4): 115-138.